



学び × 福島 = 希望

福島県ホープツーリズム総合ガイドブック

Ver.3



福島県観光交流課
福島県観光物産交流協会

福島で感じる^{ホープ}希望。それは明日への原動力
ホープツーリズム「自分自身を成長させる学びの旅」
～震災と原発事故を経験した福島オンリーワンの新しい学び～



福島県知事 内堀雅雄

東日本大震災以来、全国の皆様からたくさんの励ましや温かいご支援をいただいておりますことに改めて心から感謝を申し上げます。

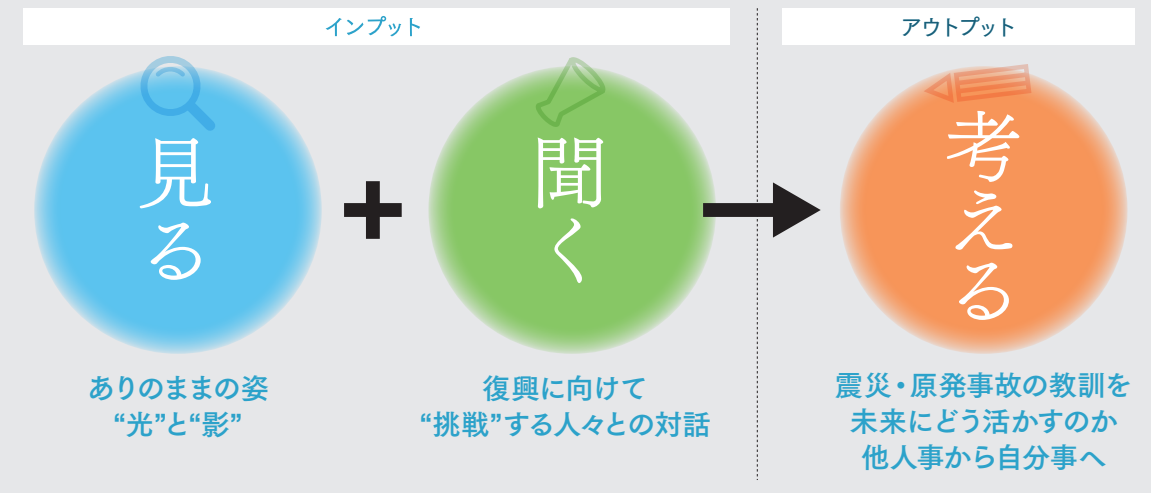
福島県は世界で唯一、地震、津波、原発事故、そして風評被害を一度に経験し、今もなお複合的かつ多様な課題がある一方で、復興を強く願い、困難な状況に屈することなく未来を見据え、挑戦を続けている人々が大勢います。そんな福島だからこそできる“新しい学び”があります。

福島県では、福島のありのままの姿と復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話を通して、震災・原発事故の教訓、復興、そしてこの逆境からどうすれば脱却できるのかを考えることで、自分自身を成長させる学びの旅「ホープツーリズム」を推進しております。

本ガイドブックでは、教育旅行、企業等の人材育成、外国人留学生等のニーズに応じたツアー内容や学びの効果等について紹介しておりますので、ぜひご覧いただき、福島をフィールドとした「ホープツーリズム」の実施をご検討いただきますようお願いいたします。

「ホープツーリズム」とは

福島の「ありのままの姿（光と影）」と、前例のない困難な状況の中でも「復興に向け挑戦し続ける福島の人々との対話」を通したインプット。自分の目と耳で見聞きした福島の状態を踏まえ「震災・原発事故の教訓を自分事として未来にどう活かすか」を考えるアウトプット。福島を訪れて感じる希望は、参加者自身の「明日への原動力」となり、成長へと繋がります。

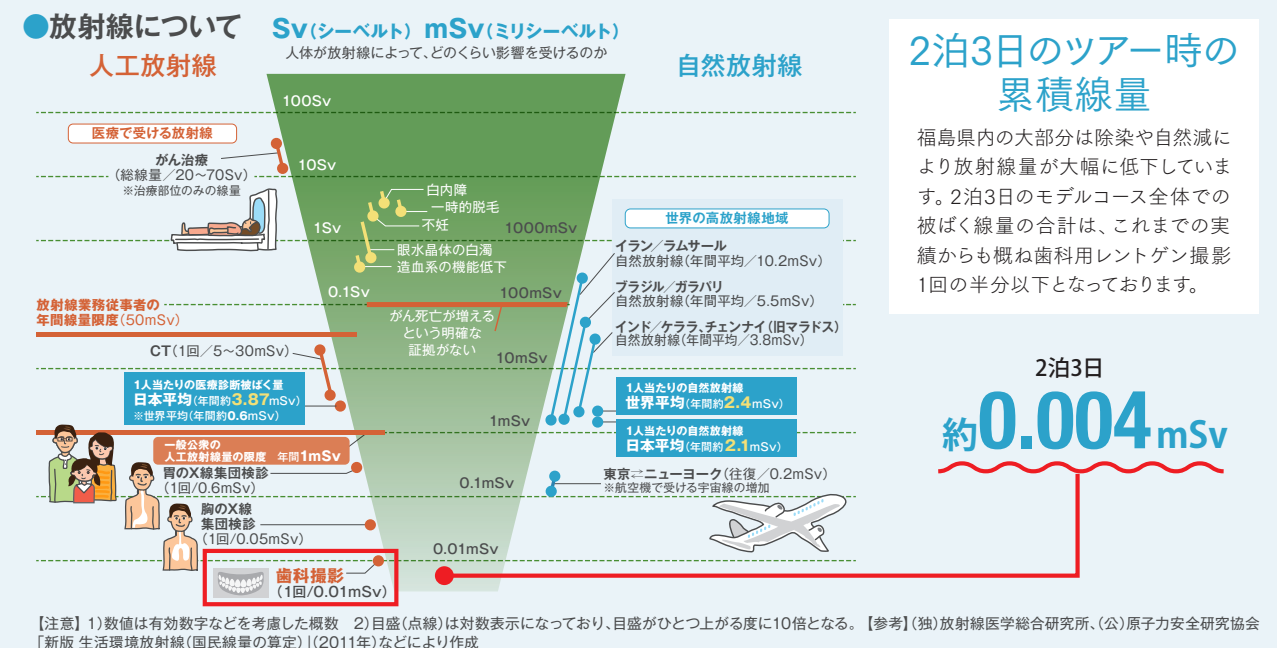


ホープツーリズム「4つのカテゴリー」



CONTENTS

知事挨拶	2	事例紹介	教育旅行	12
ホープツーリズムとは	3		企業等の人材育成	16
福島の「今」を「見る」	4		留学生	20
福島の「想い」を「聞く」	8		個人参加型	22
福島の問題を「他人事」から「自分事」へ「考える」	10	MAP・インフォメーション		23



光も、影も。報道だけでは 分からない福島県の「今」を 見る

壊れたままの建物や、避難を余儀なくされて人がいない町並み…。一方、復興に向け確かに歩み出している地域、原子力に依存しない社会を目指した再生可能エネルギーの積極的導入など、未来を担う新しい取組が始まっています。参加者は実際に自分の目で見て初めて、東日本大震災と原発事故が福島の人々の暮らしに与えた影響の大きさを理解できたと話していました。報道だけでは伝わらない“光と影”。その光景が「福島の今」です。

※放射線量が高く立ち入りが制限されている地域や、立ち入りに特別な許可が必要な場所への訪問は行っておりません。

東日本大震災・原子力災害伝承館

震災と原発事故の記録や教訓、復興への挑戦を国内外に伝えるために福島県が整備する施設。2020年夏の開館に向けた整備が進んでいます。



福島県環境創造センター交流棟（コミュタン福島）

震災・原発事故の概要、放射線の正しい知識、これからの福島の環境再生について理解を深めることができます。



東京電力廃炉資料館

東京電力の情報発信施設。映像やジオラマの展示により、原発事故当時の状況、事故の教訓や廃炉進捗状況などについて学ぶことができます。



特定廃棄物埋立情報館リブルンふくしま

特定廃棄物などの埋立処分について学べる体験型の情報館。埋立処分事業の概要、安全対策、進捗状況などについて学ぶことができます。



JAEA櫛葉遠隔技術開発センター

福島第一原子力発電所の廃炉を推進するために遠隔操作機器の開発・実証実験を行う研究施設。ロボットの遠隔技術や原子炉建屋内の一部を再現したVRを体験し、最先端の廃炉研究を見学することができます。



国道6号付近

帰還困難区域内の家屋や店舗の入り口にはバリケードが設置され、時間が止まったような光景が広がります。



中間貯蔵工事情報センター

中間貯蔵施設は、除染により発生した土壌等を最終処分まで集中的に貯蔵する施設。情報センターでは、中間貯蔵施設の概要、工事の進捗や除染土壌等の処理の流れを展示や映像等で学ぶことができます。



除染に伴い発生した除去土壌などがつまったフレコンバッグ

県内に点在する除去土壌の仮置場。美しい風景の中から突如、姿を現すフレコンバッグは、原発事故の影響を実感する光景のひとつです。



避難指示解除後の地域

復興に向かう確かな息吹や住民の帰還に向けて解決すべき様々な課題を感じ取ることができます。



「あの日」の爪痕

今なお残る



建物の多くが津波で流された地域は、草が生い茂り、目の前に海が広がります。震災後「こんなに海が近いとは思わなかった」と話す住民は少なくありません。

原発事故の印象の強い福島県ですが、沿岸部では最大10mを超える津波が押し寄せ、各地に甚大な被害をもたらしました。原発事故の影響で復興が遅れている地域には、今も津波被害の爪痕が残っています。

津波被害道路

津波の「引き波」によりセンターラインが大きく海側にずれた道路。津波の「引き波」の破壊力を視覚的に実感できます。



浪江町立請戸小学校

海岸から約200mに立地。校舎は津波に吞まれ半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。今なお被災当時の様子がほぼそのまま残っています。



浪江町営大平山霊園

犠牲者への鎮魂、後世への訓戒のために、慰霊碑が建立されています。海岸から約2km離れた高台にあり、津波被害の状況等を一望することができます。



未来に羽ばたく 新しいエネルギー

福島県では原発事故を受け、原子力に依存しない社会を目指して再生可能エネルギーの導入などに積極的に取り組んでいます。大正期の水力発電以来、首都圏へのエネルギー供給を担ってきた福島県の歴史や新たな挑戦からエネルギーと地域との関わり、これからのエネルギーについて学ぶことができます。



富岡復興メガソーラー・SAKURA

富岡復興エナジー合同会社が運営する太陽光発電所。原発事故の影響で増加した遊休農地を活用して、約11万枚の太陽光パネルを設置。売電した利益の一部を復興に役立てています。



浮体式洋上風力発電実証研究事業展望コーナー

福島県沖では浮体式洋上風力発電のビジネスモデルの確立と事業性の検証を目的に研究が行われています。



復興を担う 新しい産業

福島県では震災・原発事故によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、新しい産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」が始動しています。廃炉やロボット技術の研究開発、エネルギー関連産業の集積など最先端の取り組みについて学ぶことができます。



福島ロボットテストフィールド

物流やインフラ点検、大規模災害等に対応するロボットを対象に、実際の使用環境を再現した実証フィールドで研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができます。一大研究開発拠点です。



Jヴィレッジ

日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンターでサッカー日本代表の合宿も行われました。震災直後は原発事故の対応拠点として使用されていましたが、復旧が進み、2018年7月に一部営業を再開。2019年4月には全面再開を果たしました。



福島の「想い」を聞く

震災、津波、原発事故、風評……。

未曾有の困難の中で、それでもなお前へ進もうと果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。そうした人々を本ツアーでは「ヒューマン」と呼んでいます。

故郷を取り戻すため。人々に笑顔を取り戻すため。次世代のため。挑戦を続けるヒューマンたちとの対話から、多くの刺激や気づきを得ることができます。



HM

福島には各分野で復興に向け果敢にチャレンジする人々がたくさんいます。ヒューマンとの対話を通して、多様な視点から震災・原発事故の状況、復興に向けた取組や課題について学ぶことができます。

地域づくり

今こそ見直される“結”の精神

一般社団法人 葛尾創造舎 代表理事

下枝 浩徳 さん



震災を契機に故郷の福島県にUターン。震災と原発事故により人手不足が深刻化した葛尾村を活性化するために、支え合いの精神“結”をヒントに活動中。地域コミュニティの再構築のため、地域と首都圏を結ぶ交流事業にも力を入れています。

防災・減災

災害はあなたの住む街にもやって来る

福島大学つくしまふくしま未来支援センター 特任教授

天野 和彦 さん



東北最大級の「ビッグパレットふくしま」避難所の運営責任者。誰も経験したことのない原発事故により長期化した支援活動の実体験を踏まえ、避難所運営シミュレーション教材を開発。震災を人権の視点で捉え、その教訓や知見を発信しています。

事業者

100の課題から100のビジネスを創出する

株式会社小高ワークスペース 代表取締役

和田 智行 さん



避難指示解除後の地域を支える事業を創出するため、「地域の100の課題から100のビジネスを作り出す」を基本理念に食堂、仮設スーパー、アクセサリーの製造等を開始。課題解決とビジネスを結びつけた地域再生に精力的に取り組んでいます。

医療・福祉

震災を通してリーダーの素質を考える

南相馬市立総合病院 院長

及川 友好 さん



震災当時、福島第一原子力発電所から23kmに位置する中核病院で副院長として現場の指揮を執る。原発の状況が深刻化する中、「病院を、患者を、スタッフをどうするべきか…」自らが下した決断や葛藤を題材にリーダーのあり方について語ります。

原発・廃炉

答えが見えにくい課題に「対話」で向き合う

一般社団法人AFW 代表理事

吉川 彰浩 さん



元東京電力社員。福島第一原発、第二原発に14年間勤務。震災時は福島第二原発で復旧業務に尽力していましたが、2012年に同社を退職し、(一社)AFWを設立しました。廃炉等の現状について専門的な用語をかみ砕き、一般市民にも分かりやすく解説することで、廃炉、復興という答えが見えにくい課題に、「対話」によって向き合う活動を行っています。

農業

ふるさとに戻り、畜産農家の誇りを取り戻す

飯館村畜産農家

山田 猛史 さん



震災前、ブランド牛として高い評価を受けていた飯館牛を飼育・出荷していた畜産農家。震災後も、風評被害など、多くの逆境に立ち向かい畜産業を継続。「飯館牛」の復活に挑戦しています。

住民

「あの日」起こったこと、住民の率直な想いを伝える

浪江まち物語つたえ隊

岡 洋子 さん



地域の民話・昔話をはじめ、震災・原発事故の実話をもとに紙芝居やアニメーションを製作し、住民目線でふるさとの記憶や震災・原発事故の記憶・教訓を伝え続けています。

新しい産業

ロボットでまちおこし

南相馬ロボット産業協議会



南相馬市内のものづくりに携わる、地元の金属加工会社やIT通信会社等が結集して発足。福島イノベーション・コースト構想の中核を担うロボット産業の集積と地域活性化に向けた挑戦を続けています。

廃炉とは何か。復興とは何か。いつでも「主語は自分」

福島第一原発のジオラマを活用して、原発事故の状況や廃炉の現状について分かりやすく説明します。元東京電力社員、地域住民等の多様な視点から廃炉や復興について対話することができます。

「廃炉や復興を考える上で大切な視点は、主語を“自分”に置き換えて考えること」と訴える吉川代表。

震災・原発事故の教訓から何を学び、自分たちの地域や生活にどのように活かすのかを考えさせられます。



漁業

楽しくなければ意味がない！

相馬双葉漁業協同組合原釜支所 青壮年部顧問

菊地 基文 さん



原発事故の影響で、現在も試験操業が続く相馬市松川浦漁港。地元漁師のリーダー的存在である菊地さんは、海産物の魅力と誇りを取り戻すため、斬新なアイデアと溢れるバイタリティで水産加工品の商品開発、PRを精力的に行っています。

地域づくり

“ひとりひとりの復興”へ向かって

なみとも代表

小林 奈保子 さん



復興支援員の経験を活かし、避難指示が一部解除された浪江町でリアルな情報発信を行う。「価値観の違いを受け入れ“ひとりひとりの復興”へ一緒に歩む」をモットーにコミュニティの再生に尽力しています。

東京電力

福島第一原子力発電所の今を知る

東京電力ホールディングス(株) 福島復興本社



福島復興本社の職員から福島第一原発の廃炉作業の進捗状況、復興に向けた取組について直接聞くことができます。また、一定の条件を満たす場合は、職員のアテンド付きで、福島第一原発構内を見学することができます。

福島の問題を 「他人事」から 「自分事」へ 考える

ツアー行程中は毎日、夕食後に「振り返り（リフレクション）」の時間を設けるほか、ツアー最終日には「見る」「聞く」を通じて学んだことを深め、アウトプットするワークショップを実施します。このワークショップでは、震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題（人口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等）は「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が抱え、解決すべき問題」であるという視点に立ち議論します。



教育旅行

1日の振り返り（リフレクション）

毎日、夕食後に振り返り（リフレクション）を行い、疑問や気づきなどを共有することで情報を整理。スムーズに最終日のワークショップに臨むことができます。仲間同士でも、感じ方や考え方には違いがあり、語れば語るほど視野が広がります。



ワークショップ

最終日にはまとめのワークショップを実施。ツアーでの学びを踏まえ、次世代を担う自分たちは、どんな未来を創っていききたいかについて、ひとりひとりが社会を担う当事者として「自分事化」します。



持ち帰り・学びの成果

- 社会課題は簡単に解決しない（**「もやもや感」を持ち帰る**）が、**「考え続けること（探究心・自分事化）」**が重要
- 社会課題は立場や考え方によって様々な意見がある **「多様性の尊重と対話の重要性」**
～AorBの二者択一ではなく、議論によって第三の道（C）が開かれることもある～
- 情報過多の社会における **「物事の本質を見極める力」**や **「判断力（リテラシー）」**を身につける
～情報とどう向き合い選択・判断するか。自分で見聞きした生の情報の重要性～
- **変化や逆境への向き合い方（人生観・生き方）**
～進路選択や生き方について希望と不安の狭間に立つ生徒の皆さんに、挑戦することの大切さを伝える～



福島で感じた希望。
それは明日の学びの原動力 ▶▶ 生徒自身の成長へ！

企業等の人材育成

危機管理マネジメント・組織開発の視点

震災・原発事故の教訓、復興への挑戦からリスクの捉え方、判断・対応、企業の社会的責任を果たすための組織のあり方について考えます。



新規事業の創造、CSR、CSV等の視点



世界初の複合災害により顕在化した様々な社会課題と、廃炉やロボット技術の研究開発、エネルギー関連産業などの最先端の取り組みから、これからの社会や地域に求められる企業等の役割を考えます。

グローバルな視点で問題に向き合う

SDGsの視点から福島の復興を考える（JICA研修員）

近年注目されている、SDGs（持続可能な開発目標）の視点。福島の復興においても、ハード面だけではなく、「持続可能な復興の姿」を見据えたソフト面での取り組みも求められています。課題の先進地と呼ばれる福島を実際に訪れ、復興の現場を体感することで、SDGsといったグローバルなテーマを実践的に考えることができます。



次世代へ語り継ぐことの大切さ（広島大学留学生）



原爆投下という悲惨な経験をしながらも平和を考える上で欠かすことのできない場所となっている広島。原発事故を経験した福島で、広島に住む留学生たちが、福島の過去・現在・未来について考えました。復興の最前線で奮闘する人々との交流を通して、教訓を次世代や世界に語り継いでいくことの大切さを学びました。

そして、感じる。

震災・原発事故は、福島の豊かな自然、農林水産物、里山、海、伝統文化などに大きな影響を及ぼしました。“当たり前の日常”を取り戻すために挑戦し続ける人々や地域との出会いは、復興の現状や課題を体感するだけでなく、新しい価値観の発見や新たな人生観の芽生えに繋がります。



スタンダードコース例

福島の実況と課題について幅広い視点から学ぶ

福島の実況と課題について学び、自分事として考えるための標準的なコースです。

震災・原発事故の影響地域でのフィールド学習に加え、住民、地域団体、医療者、農家、事業者など、様々な分野で復興に挑戦するヒューマンや東京電力社員との対話から福島の実況（光と影）と課題を理解します。

毎日、夕食後に行う「振り返り」で情報の整理や共有をします。ツアーで学んだことを踏まえ最終日のワークショップで、震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題を「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が考えるべき、自分たちの問題」と捉え、議論します。

コース例

筑波大学附属駒場中学校・高等学校
灘中学校・高等学校

2泊3日

1日目 11:30 郡山駅発 貸切バス
見学・食事 【三春町】福島県環境創造センター「コミュタン福島」
対話 【葛尾村】[地域づくり] (一社)葛力創造舎 下枝代表理事
宿泊 【檜葉町】展望の宿天神 着
対話 [原発・廃炉] (一社)AFW 吉川代表理事
考える 振り返り

2日目 8:30 【檜葉町】展望の宿天神 発
見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
対話 [原発・廃炉] 東京電力社員
見学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA
食事 【大熊町】大熊食堂
見学 【大熊町】大川原地区
見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
対話 【浪江町】[住民]浪江まち物語つたえ隊
見学 【浪江町】フィールド学習(請戸小、大平山霊園、浪江駅周辺)
宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着
対話 [医療]南相馬市立総合病院 坪倉医師
考える 振り返り

3日目 8:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
対話 【南相馬市小高区】[地域づくり] 小高を応援する会3B+1 廣畑さん
対話 【飯館村】[農業]農家 高橋さん
食事 【川俣町】食堂新川
考える 【福島市】ワークショップ(テーブルファシリ:福島県立福島高等学校の生徒)
16:50 福島駅 解散

コース例

明治大学付属中野中学校・高等学校

1泊2日

1日目 11:00 広野駅発 貸切バス
対話・食事 【広野町】[地域づくり] (一社)葛力創造舎 下枝代表理事
見学 【檜葉町】檜葉遠隔技術開発センター
見学 【富岡町】特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」
見学 【富岡町】夜の森地区
見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
対話 [原発・廃炉] 東京電力社員
宿泊 【檜葉町】展望の宿天神 着
対話 [原発・廃炉] (一社)AFW 吉川代表理事
考える 振り返り

2日目 8:30 【檜葉町】展望の宿天神 発
見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
対話 【浪江町】[住民]浪江町行政会 佐藤会長
見学 【浪江町】フィールド学習(請戸小、大平山霊園、浪江駅周辺)
食事 【南相馬市原町区】旭亭
対話 【飯館村】[農業]ニコニコ菅野農園 菅野さん
考える 【福島市】ワークショップ
17:50 福島駅 解散



▼ ツアーの様子

見る



福島県環境創造センター交流棟（コミュタン福島）



東京電力「廃炉資料館」



浪江町内のフィールド学習（浪江駅周辺を歩く）

聞く



(一社) AFW 吉川代表理事と福島第一原発のジオラマを囲んで対話



浪江町行政会 佐藤会長との対話（住民の視点から見た現状）



小高を応援する会3B+1 廣畑さんとの対話（新たな地域づくりに向けて）

考える



福島県立福島高等学校の生徒と一緒にワークショップ



ツアーで発見した福島の課題や疑問点について意見交換

▼ 参加者の声

宮崎 大輔 先生 [筑波大学附属駒場中・高等学校 地歴科]

ひとつの問題が様々な側面を持ち、意見の対比が存在する。その事実面に直に触れ、生徒は頭をフル回転させたことでしょう。また、ヒューマンへの踏み込んだ質問など、生徒の熱心な姿勢には心強さを感じました。

フィールドで学ぶことの重要性、現地へ行くことの大切さ、学びの深さを体験させてくれる貴重な今回のツアー。ぜひ、多くの高校生に「福島の今」を体験してもらい、社会のあり方について考え深めて欲しいと思います。

石井 敬直 さん [筑波大学附属駒場高等学校]

福島で様々なことを見聞きし、いろいろな意味でここが世界の最前線だと感じた。廃炉研究、ロボット産業、医療など、福島には様々な可能性があることを知り、福島発展なしに日本や世界の発展はないと思った。僕は、福島の復興や発展の傍観者ではなく、関係者になりたいと思った。

片田 孫 朝日 先生 [灘中・高等学校 公民科]

たいへん濃密な3日間でした。普段目立たないタイプの生徒が、真剣にグループ討議に参加して意見を述べる姿が印象的で、教室の外で心動かされることがあると、こんな姿を見せるのかと驚きました。

福島には、苦境の中で地域をよくするために奮闘している大人・若者が多く、人格教育としても得るものが多いです。生徒もこれからの福島と、自分の生き方について、よく考えてくれたと思います。

金子 友祐 さん [灘高等学校]

生の声を聞き、伝え、共有し、また学ぶということが、我々に求められる姿勢であると理解しました。多くの場合は、何らかのフィルターにかけられたものしか我々の耳に入ってきません。そういった中で、今回、様々な分野のヒューマンに直接お会いできたことは貴重な経験となりました。

テーマ別学習コース例

コース例① 文理融合教育対応プログラム

科学技術の光と影、
エネルギーと地域社会の関係性を学ぶ

中央大学附属中学校・高等学校

2泊3日

長年にわたり首都圏へのエネルギー供給を担い、エネルギー分野における科学技術の発展を支えてきた福島県。原子力、火力、再生可能エネルギーなどの発電施設等の見学や原発事故の影響を受けた地域でのフィールド学習を踏まえ、科学技術の光と影に目を向け、エネルギーと地域社会の変遷、これからのエネルギーのあり方、豊かさとは何かについて考えを深める「文理融合型」のプログラムです。



(一社) AFW吉川代表理事と福島第一原発のジオラマを囲んで対話

コース例② SDGs対応プログラム

SDGsの視点から
持続可能な社会のあり方を考える

海城中学校・高等学校

2泊3日

SDGs(持続可能な開発目標)の視点から震災・原発事故の教訓、復興を捉え、持続可能な社会のあり方を考えるプログラムです。SDGsの視点(17目標)を活用し、社会課題と日常生活との関連性を理解するだけでなく、社会の一員として、持続可能な社会を創るために必要な視点や目標、自分達の行動について「自分達の独自目標(オリジナルSDGs)」を設定し、学びを自分事化します。

SDGs(17目標)の視点で情報を整理
(17目標に整理できないものは模造紙にタイトルを付けて別個に整理)

コース例③ グローバル教育対応プログラム

震災・原発事故で
顕在化した課題を国際課題とつなげる
～海外研修に向けた意識付け、探求のテーマ設定～

公文国際学園中等部・高等部

1泊2日

震災・原発事故の影響で顕在化した様々な社会課題を体感することで、福島の課題は「日常生活、日本社会、国際的な課題(経済成長と環境保全、エネルギー、考え方の相違による紛争、相違を乗り越えた合意形成等)」につながるという重要な気づきを得ることができます。国際的な課題を考える上での視野の広がりや探求のテーマ設定に最適なプログラムです。

ツアーでの学びを踏まえ、社会課題(テーマ)を設定。
選定理由、課題のさらなる探求・解決に向けた自分達の行動を考える

コース例④ 体験要素を加えたアクティブなプログラム

「田舎暮らし体験」を通して震災・原発
事故の影響、課題、復興への息吹を感じる

立教池袋中学校・高等学校

2泊3日

ふくしま学宿の基本コンセプト(見る、聞く、考える)に「体験型学習(感じる)」の要素を加えたプログラムです。田舎暮らし体験(郷土料理の調理、自然・農業・伝統文化の体験)や民泊、住民との交流・対話を通して、田舎の生活や知恵を学ぶだけでなく、震災・原発事故が長い年月をかけてでき上がった豊かな自然、農村、里山、伝統文化などに与えた影響を五感から感じ取ることによって学びを深めます。

村の「お母さん」を先生役に
郷土料理の調理体験

野菜の収穫体験

部活動の合宿+福島の実状と課題

合宿と学びを両立する新しいカタチ

～震災・原発事故のフィールドからの学びが本当のチームワークを育む～

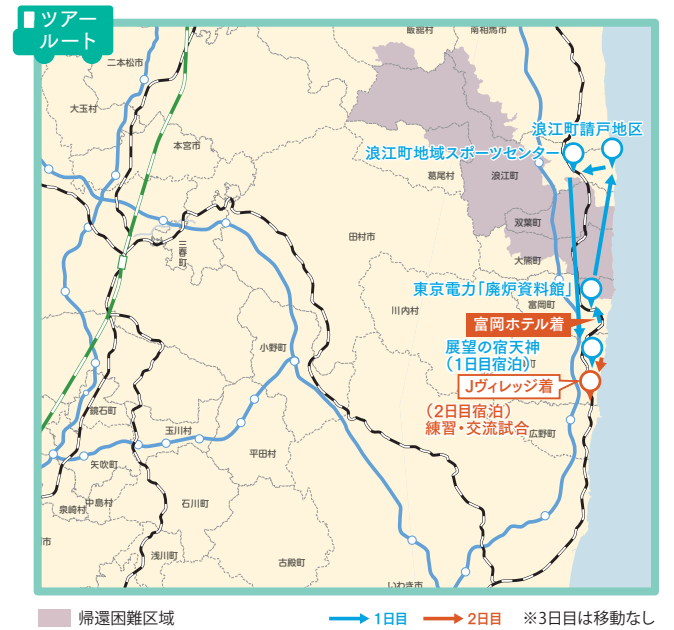
ホープツーリズムの基本コンセプト(見る、聞く、考える)に沿ったコンパクトな行程とJヴィレッジでの合宿を組み合わせたコース例です。温暖な気候で、冬季も雪の影響をほとんど受けずに年間を通じて合宿を行うことができます。サッカー日本代表も合宿を行ったピッチでの練習はもちろん、地元の学校との交流試合も可能です。合宿と学びを両立する福島ならではのプログラムです。

コース例

市川中学校・高等学校 サッカー部

2泊3日

1日目	11:30 富岡ホテル 着
食事	【富岡町】富岡ホテル
見学	【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
見学	国道6号(一部、帰還困難区域)通過
見学	【浪江町】フィールド学習(請戸小、大平山霊園)
考える	避難所運営シミュレーション教材 「さすけなぶる」を使用したワークショップ
宿泊	【楡葉町】展望の宿天神 着
対話	【原発・廃炉】(一社)AFW 吉川代表理事
考える	振り返り
2日目	合宿 【楡葉町・広野町】Jヴィレッジ(練習・地元の中学校との交流試合)
3日目	合宿 【楡葉町・広野町】Jヴィレッジ(全天候型練習場での練習)
	13:30 解散



▼ ツアーの様子



▼ 参加者の声

大澤 和仁 先生 [市川中学校]

緊急時にはコミュニティやチームの力が必要。それとサッカーには親和性があると感じている。実際現地にきて、そこから立ち上がってきた人々の声を聞くことで、「自分だったらどうするか」を考えることができ、それが実社会につながる力になる。それを学べるのが福島だ。

井上 照悟 さん [市川中学校]

今まで千葉に住んでいて、新聞やニュースでしか福島の実状を知ることができなかった。事故があったことは知っていても、避難生活のことや福島の人々の苦悩や葛藤を聞いて、千葉で災害が起きた場合を考えると他人事ではないと感じた。

※所属の学校名・役職等は、ツアー実施時のものです。

震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題から、 これからの社会に求められる行政・企業等の役割を考える

東京電力福島第一原子力発電所の視察を始め、多様な分野で復興に挑戦する人々との対話、廃炉やロボットに関わる技術の研究開発、エネルギー関連産業などの最先端の取組（福島イノベーション・コースト構想）から、世界初の複合災害により顕在化した社会課題を体感することで、これからの社会や地域に求められる行政・企業等の役割について考えます。

コース例	
国家公務員総合職内定者	
2泊3日	
1日目	10:00 福島駅発 貸切バス 【飯館村】研修ガイダンス・昼食 対話 【飯館村】[福祉]特別養護老人ホーム いいたてホーム 三瓶元施設長 対話 【南相馬市原町区】[ロボット産業]（株）タカワ精密 渡邊取締役 宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着 考える 振り返り
2日目	7:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発 見学 【浪江町】フィールド学習（請戸漁港、請戸小、大平山霊園） 見学 国道6号（一部、帰還困難区域）通過 見学 【大熊町・双葉町】中間貯蔵施設 食事 【大熊町】大熊食堂 見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」 見学 【大熊町・双葉町】福島第一原子力発電所構内（車窓） 対話 【原発・廃炉】東京電力社員 宿泊 【広野町・楡葉町】Jヴィレッジ 着 考える 福島で働く国家公務員を交えた意見交換会
3日目	7:30 【広野町・楡葉町】Jヴィレッジ 発 見学 【広野町】福島県立ふたば未来学園高等学校 対話 【教育】南郷副校長 見学 【富岡町】夜の森地区 見学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA 考える 【楡葉町】ワークショップ （テーブルファシリ：ふたばの明日を考える会） 17:30 いわき駅 解散



参加者の声

葛城 優美 さん [総務省内定]

研修を通して一番感じたことは、「福島は日本の課題の縮図であり、同時に、課題に挑戦していく最先端県」ということでした。福祉施設での労働力不足や、高齢化が進む過疎地域など、日本がまさに直面している普遍的な課題が福島の地で進行していました。同時に、現場でのお話を通じ、その課題への解決策というのは、復興のためのみならず、普遍的な課題を克服する可能性を秘めているということに気付きました。

鎌倉 真奈 さん [環境省内定]

原発事故に関連した問題には、未解明かつ時間が経つことで状況が大きく変わる事項がたくさんあります。ゴールを見据えた政策が重要である一方、変化に柔軟に対応することも必要です。研修を通じ、様々な社会課題の壁の厚みを感じました。その厚みを少しでも薄くする粘り強さが自分にあるのか、そう自問自答した参加者は私だけではありません。

嶋倉 悠介 さん [国土交通省内定]

「行政がするべきことは何か?」「（行政は）現場を正しく理解し、誰のための施策なのかを明確にしているのか?」といった問いは、私なりに頭の中に刻み込んでいたつもりであったが、まだまだ私自身の中で理解しきれていないと感じた。今後行政官として働いていく際には、現場の声なき声を拾いに動き、ミクロ/マクロを横断して本当に行政がするべきことは何かと常に私自身に問い続けて行きたい。

今泉 光一郎 さん [法務省内定]

現場に行きさえすれば福島の課題解決の糸口がつかめるのではないかと楽観的に考えていた。しかし実際に現場に行ってみると、そこにある現実とは単純ではなく、重層的であった。「現場」と言っても、そこにある現実とは多様であり、行政・住民・産業のように視点を変えるだけで「現場」の捉え方が大きく異なることが印象的だった。

▼ ツアーの様子

見る



ロボットテストフィールドの見学



除染土壌等の中間貯蔵施設（受入・分別施設）を見学



福島第一原子力発電所構内をバス車窓から見学



富岡復興メガソーラー・SAKURAの見学

聞く



いいたてホーム 三瓶施設長との対話
～原発事故当時の医療・福祉施設避難の苦難と決断、地域医療の現状と課題～



（株）タカワ精密 渡邊取締役との対話
～地元中小企業の目線から語るロボット産業集積に向けた展望と課題～



ふたば未来学園高校 南郷副校長との対話
～復興の課題を学びと人材育成に結び付ける未来創造型教育の現状～



ふたばの明日を考える会（地元自治体職員）との対話
～復興の最前線で感じる各被災自治体の現状と課題～

考える

最終日のワークショップでは、グループごとに福島第一原発、地域、行政の立場を与え、「復興のエンドステート（それぞれの役割ごとに成し遂げるべきこと）とそこに至るシナリオ」を構想。双葉郡8町村の若手職員等で構成する「ふたばの明日を考える会」も交え真剣な議論がなされました。



震災・原発事故の教訓、復興への挑戦から学ぶ「危機管理マネジメント」と「対話型組織開発」

震災・原発事故の教訓、復興への挑戦から企業等の「危機管理マネジメント」や「対話型組織開発」のあり方を考える、中間管理職や危機管理部門、人材開発部門の社員等を対象とした人材育成プログラムです。

フィールドワークや地域団体等との対話による「インプット」とケーススタディ教材等を使用した「アウトプット」を通じ、震災・原発事故の教訓等を企業としてどう活かしていくかを考えます。

コース例

(株)本田技術研究所とその関連企業等の社員 1泊2日

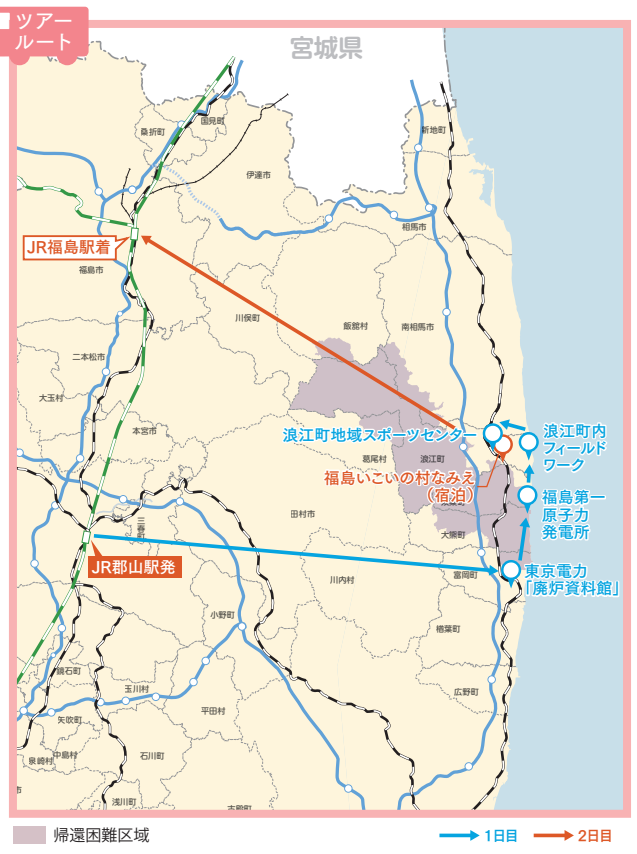
1日目	8:15 郡山駅発 貸切バス
	対話 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員
	見学 【大熊町・双葉町】福島第一原子力発電所構内(車窓)
	見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
	見学 【浪江町】フィールドワーク(浪江駅周辺、請戸小、大平山霊園)
	考える アウトプット①(震災・原発事故の教訓から学ぶ「危機管理マネジメント」)
	宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ着
	考える 振り返り
2日目	9:00 【浪江町】福島いこいの村なみえ
	対話 【地域づくり】(一社)まちづくりなみえ 菅野事務局次長
	考える アウトプット②(復興への挑戦から学ぶ「対話型組織開発」)
	考える アウトプット③(まとめのワークショップ)
	17:00 福島駅 解散

テーマ①震災・原発事故の教訓から学ぶ「危機管理マネジメント」

震災・原発事故の教訓から、リスクの捉え方、判断・対応、企業の社会的責任を果たすための組織のあり方について、幅広い視点から考える。

テーマ②復興への挑戦から学ぶ「対話型組織開発」

復興事業の立案、調整、実行の過程等を題材としたケーススタディから、組織を構成している人と人との関係性(ヒューマンプロセス)の構築、変化に対応し続ける人・組織のあり方等について考える。



参加者の声

種子 俊明 さん [株式会社本田技術研究所]

HONDAでは、三現主義(現場・現物・現実)の原則に基づくモノづくりを行っているが、今回の研修を通じて、自分の目や耳で生の情報や状況を確認することの重要性を改めて感じる事ができた。リスクマネジメントは重要とされているが、多くの企業内でまだまだ浸透していないのが現実。時間が取られる、面倒、厄介等のネガティブな印象を持たれているが、そうではなく、企業全体の利益につながるという視点が大切。また、復興への挑戦からは、挑戦するというマインドが薄れている若い世代に、挑戦することの意義や大切さを教える意味でも非常に学びの効果が高いと感じた。

下谷 拓斗 さん [株式会社オートテックジャパン]

ケーススタディを行う研修は多いが、非常にリアル感があり自分事化に繋がる。特に、復興事業の立案、調整、実行等を素材としたケースは、ドラマのように場面が展開し、臨場感があり斬新で新鮮だった。復興への挑戦の過程からも、自社内と同じようなヒューマンプロセス上の問題や課題があり、適切なプロセスを踏む上での葛藤や工夫、決断等を学ぶことができ、非常に参考になった。「自分が少し勇気を持って行動すれば結果が大きく変わる」ことを実感し、組織における対話の重要性、個々の変化が組織変革に必要という気づきを得ることができた。

※所属は、ツアー実施時のものです。

▼ツアーの様子

見る



一部を除き避難指示が解除された浪江町でのフィールドワークから震災・原発事故の影響を体感する。



福島第一原子力発電所構内をバス車窓から見学

聞く



原発事故の経過・廃炉の進捗状況について東京電力社員と対話。



避難指示解除からの新たなまちづくりに向けた挑戦について(一社)まちづくりなみえの菅野事務局次長と対話。

考える

アウトプット①
(震災・原発事故の教訓から学ぶ「危機管理マネジメント」)



原発事故発生の背景・原因を知り「リスクの捉え方、判断・対応、企業の社会的責任を果たすための組織のあり方等」について、幅広い視点から考える。

アウトプット②
(復興への挑戦から学ぶ「対話型組織開発」)



復興事業の立案、調整、実行の過程等を題材としたケーススタディから、人と人との関係性(ヒューマンプロセス)について考える。

アウトプット③(企業の社会的責任を果たすため、課題に立ち向かい、変化に対応し続ける人・組織になるために必要な視点等をまとめる)



1 グループワーク
組織における課題の整理、課題に対して組織はどう向き合うべきか、その際の阻害要因は何かについて考える。



2 個人ワーク
個人の変化と対話によるヒューマンプロセスの構築が組織の適応力・創造力を生成する観点から、自分自身の今後の具体的な行動や考え続けることを宣言する。

SDGsの視点から福島復興を考える

持続可能な開発目標（SDGs）の視点から福島復興を考えるプログラムです。

コミュニティの再構築や地域の復興などのローカルな課題を、グローバルな視点で捉え、世界中の人々が生きるために必要なキーワードを発見します。地域を見つめ、復興のゴールとは何か、SDGsの視点から福島復興について議論します。

コース例

独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修員 **2泊3日**

1日目	10:30 仙台駅発 貸切バス 食 事 【相馬市】たこ八 見 学 【相馬市】和田観光苺組合 見 学 【相馬市】レナトス相馬ソーラーパーク 対 話 【富岡町】[事業者]株式会社ふたば 遠藤代表取締役 見 学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA 対 話 【富岡町】[再エネ]福島発電 鈴木代表取締役 宿 泊 【富岡町】富岡ホテル 着
-----	--

2日目	7:30 【富岡町】富岡ホテル 発 見 学 【富岡町】夜の森地区 対 話 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員 見 学 国道6号（一部、帰還困難区域）通過 対 話 【浪江町】[地域づくり]任意団体なみとも 小林代表 対 話・食 事 【南相馬市小高区】双葉屋旅館 [住民]小林女将 [地域づくり]小高を応援する会3B+1 廣畑さん 宿 泊 【南相馬市原町区】ダイワリンクホテル南相馬店 着
-----	---

3日目	8:00 【南相馬市原町区】ダイワリンクホテル南相馬店 発 対 話・食 事 【飯館村】[住民]までい工房美彩恋人 渡邊さん 考 える ワークショップ 15:30 仙台駅 解散
-----	--



▼ ツアーの様子

見
る

富岡復興メガソーラー・SAKURAを見学

聞
く

株式会社ふたば 遠藤代表取締役との対話

考
える

疑問・課題を解決し、SDGsの視点から復興のゴールを考える

▼ 参加者の声

センガン・セン さん
[宮城大学在学/セネガル出身]

福島の人々は震災でたくさんのものを失った中でも、どのように立て直していくかを真剣に考えていた。地域の方々の話はどれも力強く、ふるさを思う熱意に涙する参加者もみられるほどだった。
抽象的だった福島イメージが、「あの町であの人が言っていたように」と、ツアーを通して具体的に感じていくのを感じた。
福島復興に関して、政府の力だけでなせるものではないと考えている。新しい世代の若い人々が一緒に復興に関わってこそ、住民主体の理想の復興のカタチができるのではないだろうか。

※所属は、ツアー実施時のものです。

語り継ぐことの重要性を知る

避難指示解除後の地域で生活する人々と交流し、メディアで報じられる「フクシマ」ではなく、福島のありのままの姿を体感します。

原爆投下を経験した広島と原発事故を経験した福島をつなぐ視点で見ると、正しい知識や教訓を後世に残すためには、人から人へ語り継ぐことが何よりも重要であることに気づきます。

コース例

広島大学の留学生 **2泊3日**

1日目	14:25 いわき駅発 貸切バス 見 学 【富岡町】特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」 対 話 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員 対 話 【檜葉町】[原発・廃炉]（一社）AFW 吉川代表理事 宿 泊 【富岡町】富岡ホテル 着
-----	---

2日目	7:50 【富岡町】富岡ホテル 発 見 学・対 話 【富岡町】フィールド学習 [住民]NPO法人富岡町3・11を語る会 青木代表 見 学 国道6号（一部、帰還困難区域）通過 食 事 【浪江町】福島いこいの村なみえ 見 学 ビデオ「無念」上映 見 学 【浪江町】エゴマ収穫祭 対 話 【農業】石井農園 石井代表 見 学 【浪江町】フィールド学習（請戸小、大平山霊園） 対 話 【南相馬市小高区】[地域づくり] 小高を応援する会3B+1 廣畑さん 宿 泊 【檜葉町】展望の宿 天神着
-----	---

3日目	8:30 【檜葉町】展望の宿天神 発 対 話 【広野町】[人材育成] NPO法人ハッピーロードネット 西本理事長 考 える 【郡山市】ワークショップ 15:30 郡山駅 解散
-----	---



▼ ツアーの様子

見
る

石井農園のエゴマ収穫祭で住民たちと餅つきに挑戦

聞
く

小高を応援する会3B+1 廣畑裕子さんとの対話

考
える

地域全体の課題を発見した一方、その中で生活する人の力強さを実感

▼ 参加者の声

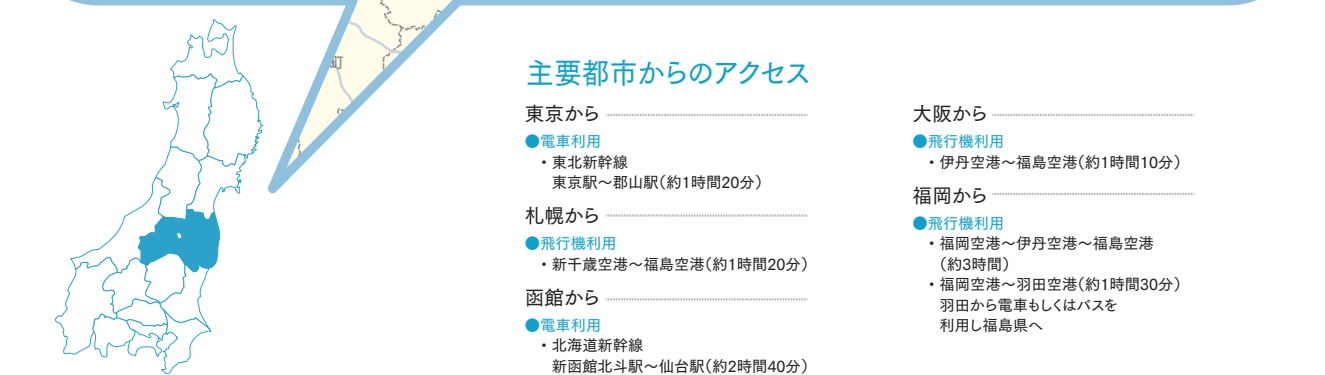
ホアン・ゲアン・
ヴァン さん [ベトナム]

これからたくさんの国がエネルギーについて考えていく中で、エネルギーを使う我々が学ばなくてはならないと思った。
救いたくても救えなかった命、地域の人々の強い思いなど、生の声を聞くことができ、原子力災害は二度と起きてはならないと実感した。
原爆投下の広島と原発事故の福島。状況は大きく異なるが、重要なことは、この事実を次世代に伝えていくこと。出来事だけでなく、地元の人たちの声や想いを、我々が伝承していかなければいけないと強く思った。

震災・原発事故の被災地域である浜通りと阿武隈地域を訪ね、地元の人、食、文化と触れ合う交流体験型のツアーを実施。改めて実感するこの地域の「自然、農林水産物、里山、海、伝統文化など」の豊かさや価値。福島復興の現状や課題を体感するだけでなく、素朴で温かい地域や人の魅力を五感で感じ、再発見する新しい旅のカタチです。

個人参加型モデルコース 1泊2日

2 日 目	8:30	【浪江町】福島いこいの村なみえ苑
	見 学	【浪江町】フィールドワーク(請戸小、大平山霊園)
	体験・食事	【葛尾村】ねぎ味噌づくり体験・郷土料理の昼食
	13:40	浪江駅解散 JR常磐線にて東京駅へ



発行 福島県観光交流局観光交流課
 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
 TEL.024-521-7398 FAX.024-521-7888

問 公益財団法人福島県観光物産交流協会
 〒960-8053 福島県福島市三河南町1-20 コラッセふくしま7階
 TEL.024-525-4060 FAX.024-525-4087

●本誌掲載データは、2020年3月現在のもので、●内容は予告なく変更される場合もありますので事前にご確認ください。●掲載の記事・写真・図版・イラスト等の無断転載を禁じます。また、写真はすべてイメージであり実物とは異なる場合があります。●掲載の地図や縮尺、所要時間などは、おおよその目安となるものです。●この冊子に掲載された内容により生じたトラブルや損害などについては、補償いたしかねますので、予めご了承ください。

“きっかけ”は、 ふくしまで、みつかる

ふくしまの今から伝わる、過去と未来。
流れた多くの時間の中にある葛藤と決意。
課題に向き合い、あゆみ続ける人々。

ここには、
“希望”を持つ人々がいる。
“芽生え”を促す場所がある。

ここでつかんだ学びの種が新しい道を示し
これからの人生の糧となるでしょう。

“きっかけ”をみつけに、ふくしまへ。